

26. 悪性リンパ腫化学療法中に両側肺門部に ^{67}Ga の一過性高集積を認めた 1 例 ……山本 尚幸他…1048
 27. $^{99\text{m}}\text{Tc-HMDP}$ の淡い集積を示した Neuroblastoma の 5 症例 ……藤田 岳史他…1048
 28. 肺血流 SPECT を用いた術後呼吸機能の術前予測 ……細川 敦之他…1049
 29. 肺シンチで経過観察した肺血栓塞栓症 17 例の検討 ……菅 一能他…1049
 30. $^{123}\text{I-IMP}$ 肺シンチを施行した SLE に伴った肺血栓症の 1 例 ……菅 一能他…1049
 31. 透過型 CT を用いた定量的 SPECT 画像再構成法の検討 ……村瀬 研也他…1049
 32. HM-PAO SPECT における新しい直線化補正法の試み ……井上 武他…1050
 33. TRH 負荷試験に誘発された TSH 分泌の速度論的解析 ……佐藤 泰子他…1050
 34. 唾液腺シンチグラフィによる Bell 麻痺の予後評価 ……松井美補子他…1050
 35. 蛋白漏出性胃腸症に対する $^{99\text{m}}\text{Tc-HSA-D}$ イメージ診断の経験 ……米城 秀他…1050

一 般 演 題

1. DCS-3000 による全身骨および大腿骨近位部の骨塩定量

友光 達志 大塚 信昭 福永 仁夫

(川崎医大・核)

従来の装置と異なり、多検出器を採用した DEXA 装置 (DCS-3000) を用いて、全身骨および大腿骨近位部の骨塩定量を行い、QDR-1000 によるそれと比較検討した。

対象は、DCS-3000 による全身骨および大腿骨近位部の骨塩定量と、既存の QDR-1000 による腰椎および大腿骨近位部の骨塩定量を同時に施行し得た 40 例である。なお、対象の全例から川崎医科大学附属病院受託研究審査委員会の規定に基づき、治験参加の同意を得ている。DCS-3000 による全身骨と QDR-1000 による腰椎の Bone Mineral Density (BMD) 値の相関、および両装置で得られた大腿骨近位部の BMD 値の相関性を求め、DCS-3000 による骨塩定量の妥当性を検討した。その結果、全身骨と腰椎の BMD 値の相関は $r=0.825$ で、大腿骨近位部の 3 部位 (頸部、転子部と Ward 三角) における相関はそれぞれ $r=0.858, 0.969, 0.873$ であり、良好な正の相関性が示された。このように、DCS-3000 は DEXA 装置として十分に臨床使用が可能な装置であることが示された。

2. Radioimmunotherapy における骨髄抑制軽減の試み

中村 誠治 木村 良子 赤宗 明久
 藤井 崇 津田 孝治 石丸 良広
 棚田 修二 飯尾 篤 濱本 研

(愛媛大・放)

担癌ヌードマウスに ^{131}I 標識モノクローナル抗体を $500 \mu\text{Ci}$ (18.5 MBq) 腹腔内投与後、G-CSF $100 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{day}$ を 14 日間連日皮下投与し、末梢血の変化を経時的に測定した。G-CSF 投与群では非投与群と比較して、白血球減少の抑制効果が認められた。 ^{131}I 標識モノクローナル抗体投与群では非投与群と比較して、腫瘍成長速度の抑制効果が認められた。G-CSF 投与の有無は、腫瘍成長速度には影響を及ぼさないとと思われる。Radioimmunotherapy における骨髄抑制軽減に G-CSF が有用であることが示唆された。

3. 肝細胞癌の骨転移： $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ による診断

大塚 信昭 福永 仁夫 小野志磨人
 森田 浩一 永井 清久 三村 浩朗
 柳元 真一 友光 達志 (川崎医大・核)

肝細胞癌の骨転移の評価を目的として、臨床的および組織学的に肝細胞癌の骨転移と診断された 6 例に骨および $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$ シンチグラフィの併用を行った。骨シンチ上、異常集積を示した 2 例 (1 例は多発異常集積、1 例は胸椎の小 hot spot 例) において $^{99\text{m}}\text{Tc-HM-PAO}$